



## 『日々の努力』

北海道

室蘭琢心館

小学4年生

小林 未空

私の家には小さな道場があります。それは私の父の自慢の道場であるが私にとっては苦痛な空間でもあります。それは私と妹そして父が通っている週二回の琢心館の稽古以外の日はほぼ毎日父と小さな道場で稽古をしています。今年の春の地域の各館錬成大会で私は初めて入賞する事が出来ました。琢心館と私の名前が呼ばれ賞状とトロフィーを手にした時とても嬉しく日々の稽古を頑張ったから入賞出来たんだと嬉しく思い父もきっとほめてくれると思っていました。ところが賞状とトロフィーを見た父の言葉はまったく別の言葉でした。「何故優勝でなく準優勝だ。良く考えてみる。優勝できなかったのはお前の努力が足りないからだ。」そしてまた厳しい日々の稽古でした。琢心館の厳しい稽古の中では先生や先輩はなかなか面や小手を打たせてくれず何度もかわされたり、応じられたり、時には転ばされたりと稽古の中で何度も自分の力のなさにくやしい思いをしています。琢心館の稽古の中で先生や先輩に掛かって行く打ち込みや掛かり稽古は厳しく辛いです。その辛さからにげるため稽古中後ろにさがり面ひもをしぼり直しさぼっている仲間を見て私もわざと面ひもを外し休んでいると父が見ていてその場では何も言わないけれど家に帰ってから夜の食事もとらず厳しい掛かり稽古を持っています。打たれる面や小手の一本一本が強くいつも痛さに面の中で涙を流しながらその辛く厳しい稽古に耐えます。私はそんな時琢心館八つのちかいの一つを思います。それは、「何事にも耐える厳しさを覚えます。」のちかいです。

そのちかいを稽古中いつも思っているもやはり琢心館の稽古と父の稽古は辛く厳しいです。私はある時考えました。私と同じ学年の仲間や後輩は稽古中さぼり真剣に稽古をしないのに何故先輩たちはあの厳しい稽古にも耐えられ続けられるのだろうか。いつもは素直に聞く事が出来ない父の言葉の中に一つだけ私の心に残った言葉があります。それは「人に勝つためではなく人に負けないための努力をなさい。」という言葉でした。私は剣道が下手くそです。下手くそなら人の何倍も努力しなければなりません。きっと先輩たちもこの厳しい稽古に耐え仲間を負けない努力を続けてきたからあの厳しい稽古にも耐える事が出来て後輩の私たちへ厳しさをあたえられる事が出来るんだと私は気が付きました。私の家には次の4つの言葉がかざって有ります。規律、礼儀、己、人の4つです。決められた事を守る人、感謝の気持ちを忘れず素直な心を持てる人、自分のためではなく人のために生きられる人、私は最近この言葉の意味がわかる気がします。剣道を学び正しい礼儀、行儀作法を身に付け先輩や仲間、後輩たちと稽古ができる喜びそして先生方に指導されたことに「はい」と返事が出来る素直な心を持つことが学校で悩み事がかかえている友だちの話を聞き、力になってあげられるのだと思います。困っている人がいれば見て見ぬふりをするのではなく声を掛け手を差し出し助けてあげる事が出来る人きっと私達姉妹にそうゆう人になってほしいという想いが込められた言葉だと思います。今私に出来る事それは剣道を正しく学び人に勝つための努力ではなく人に負けない努力を私自身が考え行動し館員のちかいにある「何事にも耐える厳しさを覚えます」ということそして4つの言葉の意味を忘れず剣道の稽古と私生活を精一杯努力し生きる事だと思います。琢心館は剣の技術と心を琢く所として開館から45年というれきしと数多くの先輩達が巣立った館。私もそんな多くの先輩達のように立派な剣士立派な人間になれる様努力を続けます。今はまだ私の家の道場は苦痛の空間ですが父との稽古を見て少しでも助けてくれようと小さな体に防具を付け一緒に稽古をしてくれる妹、稽古の後涙を流す私を励まし応援してくれる母そして週に二日忙しい仕事の中でも稽古を付けて下さる館長を始め先生方、私はいつもこの言葉を思い日々の努力を続けます。

「継続は力なり」